

国際社会学部

川本 智史

Satoshi Kawamoto

地域社会コース／中東

オスマン都市史・建築史

オスマン帝国と建築

専門はオスマン都市史・建築史です。もともと、前近代オスマン朝の宮殿建築の研究をしており、内容を発展させてオスマン期に建てられた都市や建築全般を研究対象としています。13世紀末に北西アナトリアに誕生したオスマン朝は、16世紀には帝都をコンスタンティノーブル＝イスタンブルに置いて東地中海世界のみならず、バルカン半島やコーカサス、黒海北岸地域にまで支配を及ぼした帝国へと成長します。キリスト教世界とイスラーム世界の双方における超大国となったオスマン帝国は、イスタンブルをはじめとする帝国内の諸地域で豊かな建築文化を花開かせました。ペルシア世界から継承した建築類型や装飾、ビザンツ世界のドーム架構、地中海世界の中庭空間、バルカン半島の木造建築など、多様な地域の建築文化が混淆してオスマン建築が誕生したのです。宮廷建築家集団が設計・監修したスレイマニエ・モスクのような帝都の大伽藍から、田舎町の民家建築に至るまで、オスマン帝国が解体した今日も、かつての帝国領内ではその痕跡を至るところで見ることができます。

研究紹介

学生時代には工学部建築学科というところに所属していましたが、ずっと中東世界に魅せられていました。幸い在籍していた大学には文学部がいろいろな講義が開講されていたのであれこれ顔を出し、設計に勤しむ同級生たちのかたわらでアラビア語の予習をしたりしていた変な学生でした。修士課程と博士課程でそれぞれ一度ずつトルコ共和国への長期留学を経験して、たくさんの建物を見て回り、文書館で当てもなく史料をめぐったりする贅沢な時間を過ごしました。そのときにであったのが15世紀オスマン朝の宮殿建築です。オスマン朝の宮殿と言えばトプカプ宮殿が真っ先に思い浮かぶわけですが、それ以前にどのような宮殿が営まれていたかについてはほとんど知られていませんでした。実は16世紀以前の世俗建築（モスクのような宗教建築ではないもの）はあまり現存しておらず、実例からその姿を知ることは難しいのです。そこで文献史料から宮殿建築の空間と用途を読み解こうと、オスマン語のみならずフランス語やイタリア語など、来訪者の手になる同時代史料を読み、15世紀初頭に旧都エディルネに造営された宮殿こそトプカプ宮殿の祖型となるものだったことを発見しました。オスマン国家が中央集権化を企図し、イエニチェリのような直轄軍を拡張するなか、儀礼用中庭を備えた新式の宮殿を建てるのが急務だったのです。その他にも、文献史料から帝都イスタンブルをはじめとするまちの、都市史的な研究もおこなっています。征服直後のコンスタンティノーブルに残されていた住宅建築を調査した台帳や、ボスポラス海峡を往来する舟について記録した法廷台帳など、勉強すればするほど興味深い史料が出てくるのがオスマン朝研究の醍醐味です。建築だけではなく、都市空間に刻まれた歴史の痕跡と人々のいとなみをひもとく旅と一緒にしてみませんか。



担当授業

- 中東地域基礎3 トルコ
- 2年生新聞購読
- 3・4年生小説講読
- 中東世界の都市と建築
- イスラーム世界の「技術」

関連する分野

- 美術史
- 歴史学
- 中東地域研究
- 世界遺産

出版物

- 『イスラム建築が面白い!』、2009
- 『オスマン朝宮殿の建築史』、2016
- 『トルコ共和国 国民の創成とその変容 —アタテュルクとエルドアンのはざままで』、2019
- 『地中海を旅する62章』、2019
- 『危機の都市史：災害・人口減少と都市・建築』、2019
- 『都市からひもとく西アジア：歴史・社会・文化』、2021
- 『岩波講座 世界歴史13 西アジア・南アジアの帝国 16～18世紀』、2023

国際社会学部

都市史・建築史ゼミ



どのようなゼミか

本ゼミは、語科の枠を超えて都市や建築を対象としています。また歴史学を中心として、トルコ語を研究に使いたい学生も受け入れています。「空間を読み解く」をテーマにして、身近なところから歴史を感じてほしいと思います。ゼミでは都市や建築を対象とする研究論文を輪読・発表し、時にはキャンパスを飛び出してまちあるきをします。今までに滝山城や銀座の神社、武蔵国国府跡などを訪問してきました。本当はイスタンブールでまちあるきをしたいのですが、なかなかそうもいかないので夏休みには国内でゼミ旅行を実施します。

人間は環境に働きかけることで、その活動領域を拡大し人類文明を築いてきました。その中心となるのが「都市」で、膨大に集積された建築ストックと道路や鉄道をはじめとするインフラは、人類の歴史を学ぶ上で貴重な手がかりとなります。また都市の内外の地形や海岸、河川なども空間に思わぬ影響を及ぼすことがあります。

本ゼミでは空間をキーワードにして、社会のありようを読み解けるようになることを目指します。その前段階としてアカデミックな文章を読み解いて発表し、まとめられるようになることを目指します。また外国語大学の強みを活かし、専攻語で書かれた研究にアプローチして、日本語や英語だけでは知ることのできない情報に触れることも目標としています。

本ゼミを通じて、まちを歩くことの楽しさを知り、人間にとって場所のもつ大きな意味を学んでほしいと思います。



卒論

・“Who are the Kurds?
Historical journey to the
largest stateless ethnic group”
・「20世紀初頭のイスタンブール火災
保険地図を用いた都市空間の分析
ー」

おススメの本

- イブン・バットゥータ『大旅行記』
- 作者不詳『千夜一夜物語』
- オルハン・パムク『イスタンブール』
- ホルハ・ボルハス『トレイン・ウクパール・オルビス・テルティウス』
- イタロ・カルヴィーノ『見えない都市』
- ・鈴木董『食はイスタンブールにあり 君府名物考』

